

青嵐（あおあらし）とは、「初夏の木々の葉をゆすって吹くやや強い風」、「青々とした山の気」などの意味がある言葉です。逗葉高校を吹き抜けるさわやかな風と、生徒の皆さんのたくましさをイメージしました。第16回は、「伝える・受け取る」です。

校長通信「青嵐」は、私が逗葉高校に着任して以来、不定期ですが継続して出しているメッセージです。内容は、日々の学校での出来事紹介という感じではなく、少しとっつきにくいかもしれませんが、「高校生」という子供と大人の境界線上にある皆さんに、一人の大人である私が伝える「思い」だと思っただけだと嬉しいのです。

逗葉高校の皆さん、新しい年度が始まって、あっという間に1か月が過ぎました。世界には新学期が秋に始まる国も多いのですが、やはり春に迎える新学期というのは、期待が膨らむ感じで、とても良いと思います。春の暖かな日差しを受けて感じる何ともいえない「ワクワク感」は、新たな始まりを告げる「心のファンファーレ」のようなものかもしれません。

日差しといえば、私たち地球上で生まれた生命は、太陽によって生かされています。太陽というと光の恵みというイメージですが、この光のエネルギーを化学エネルギーに変換して、私たちの命のエネルギーの元である有機物にしてくれるのが、植物の光合成であるということは、皆さんもよく知っているでしょう。太陽が放出する、莫大な量の電磁波のうち、ある波長域は、植物にとって文字通りのエネルギーです。ですから植物は、光を、私たちが感じる光とは全く違ったものとして受け取っているはずです。

動物であっても、目という器官を持たないものにとっては、太陽光は光ではなく電磁波として、例えば、赤外線熱として感じられるだけなのかもしれません。

たとえ目を持っていたとしても、視細胞の関係で赤や緑を上手く識別できない犬には、さわやかな緑の草原が、全体に黄色みがかかった世界に見えるそうですし、水中を泳ぐ魚には、私たちにとって日焼けの元でしかない紫外線が、色として見えるそうです。

さらに、受け取った感覚情報を脳でどのように処理するかによっても、見え方は違ってくることでしょう。例えば視野の中で、興味のあるものははっきりと見え、それ以外のはあまり認知されません。

どうやら、同じものや現象であっても、受け取る側の「感覚」によって、違ったものとして認識されるということは、ごく普通のことのようです。

では、私たち人間同士の場合はどうでしょう。みな同じホモ・サピエンスですから、「感覚」についても共通する部分が多くあるのはもちろんですが、人それぞれの「感覚」や「感性」に違いがあることは間違いのないと思います。同じ場所で同じようにしていても、自分と同じ世界を見て(感じて)いる人は、「自分だけ」なのかもしれません。

自分とは違う見方、感じ方をしている存在があるということ、普段の私たちは忘れがちです。今、自分が見ている世界を、それが誰にとっても同じで、唯一の世界であると思いついてしまうのです。そして、「自分の世界で通じる方法」で、相手に伝えたいことを伝えようとし、または相手が伝えようとしていることを受け取ろうとして、時にコミュニケーションに失敗してしまうことがあります。

そんな時、「私を解ってくれる人なんか、いやしない」とか、「あの人が言っていることは、全く意味がない」とかの、孤立感や排斥感が芽生えてしまうことがあります。

私たちの周りには、いつも多くの人々がいますが、人がみな、それぞれの世界を持っているということは、私たちを孤立させるのでしょうか？

人の数だけ世界があるということは、素敵なことなのだと、私は思っています。

皆がそれぞれの世界を持っているから、人は互いに解り合えないのではなく、解り合いたいという願いが生まれるのだと思います。

私の世界と誰かの世界は、ある部分は重なり、ある部分はズレている。だからこそ世界は豊かなのではないのでしょうか。

相手に解ってほしいと思ったら、どうすれば伝わるのかを、相手のことを思いやって、考えることが必要です。相手のことを解りたいと思ったら、時には普段と違うセンサーを起動することが必要です。

つまり、伝えるためにも受け取るためにも、ちゃんと努力をしなくてはいけないということです。コミュニケーションには、「力」がいるのです。

どうか、このことを面倒だと思わないでください。それぞれ、違う世界に生きる私たちを結び付けてくれるのが、コミュニケーションです。相手の世界は見えないけれど、それを想像して伝え合い、受け取り合うために、さまざまに考え工夫することは、私たちの脳にとって、素晴らしい冒険なのです。

今、周囲とうまくコミュニケーションが取れていないと感じている人もいます。いつでもうまくいくなんで、そんなことはあり得ません。だから、無理に「友達」を作る必要もありません。「一人である」ことが孤立とイコールであるとは思いません。

ただ、どんなにうまくいかない時でも、自分自身も含めて周囲の人を否定したり軽蔑したりすることはしないでください。そして、何かを伝えたい、または受け取りたいと思ったら、誠実に努力することを諦めないでください。

人生の様々な出会いや経験の中で、伝え、受け取るための、たくさんの試みの全てが、皆さんを大きく成長させ、皆さんの人生を彩り豊かにすることを、心から願っています。

平成30年5月1日
校長 大貫 晶子